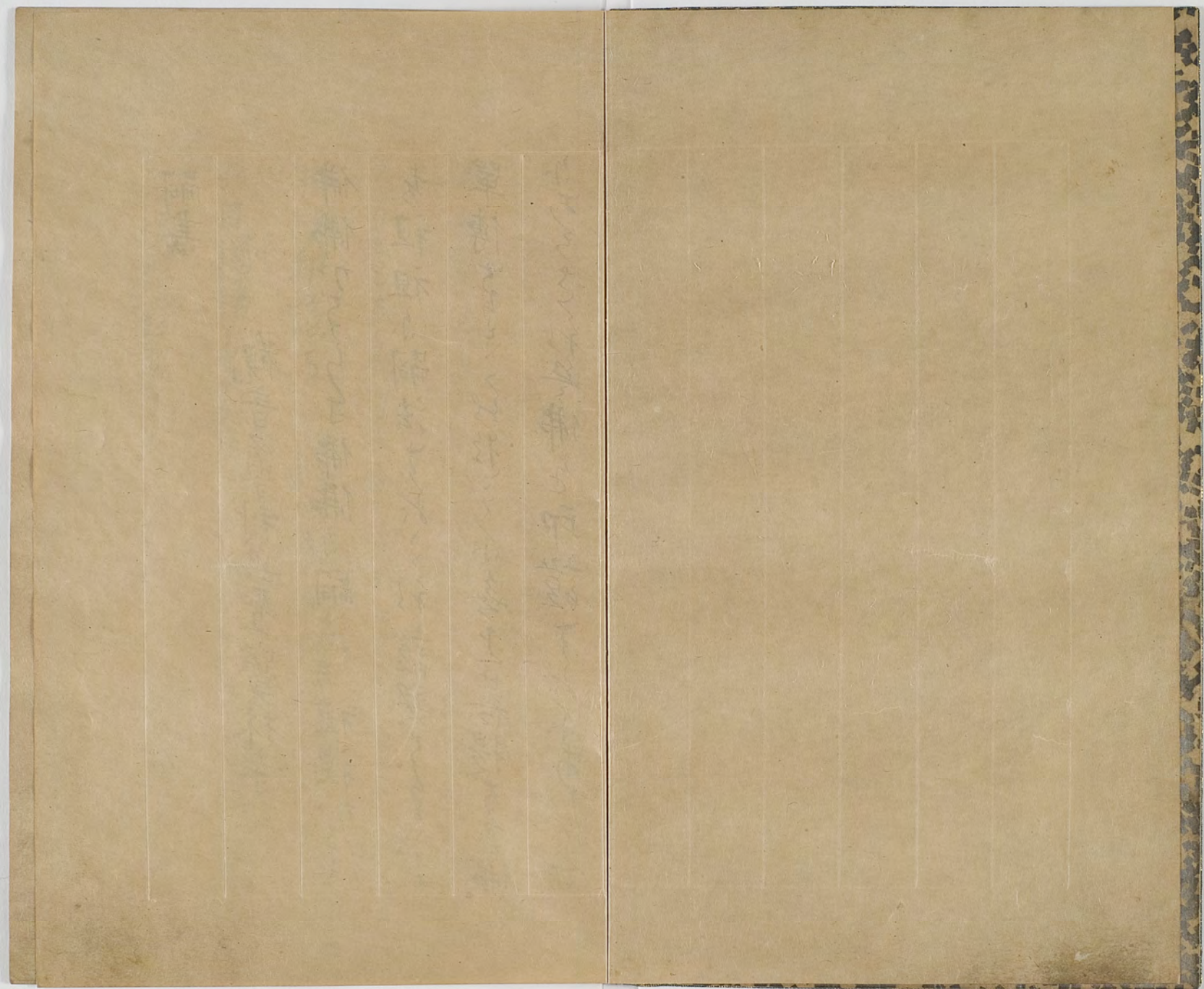




蘭書







嗣書

觀音導利興聖寶林寺

佛佛からう寸佛佛ふ嗣法を祖祖からう
者祖祖ふ嗣法すれ、これ證契するに、これ
單傳するに、これ無上菩提するに佛
ふあらうこれ佛を印證するふあらう寸

佛は印證をえられ佛なるをあらう寸
佛ふあらう寸よれをあらう寸これを宗尊
ちうとく、これ無上ちうとく印するあらう寸
佛は印證をうけ、これ無師獨悟するを
無自獨悟するをあらう寸のう、佛佛證嗣
と祖祖證契するに、これ道理の宗

自々佛佛小あゝとと小々あゝとと
 寸いとんや十地等覺所量とんやいとん
 也經師論師等所測度すゝととんちとん
 也とととを為説すともゝ小とととと
 佛佛相嗣すゝととと佛道ととと佛佛
 究盡小とと佛佛小あゝととと時節あゝと

たつと石と石と相嗣志玉と玉と相嗣する
ととあま菊も相嗣あま松し印證すおふと
前菊後菊如如と前松後松如如と
とと一かたはとととあまとあまと
とと佛佛正傳は通ふあまといふといふ
あま通得するといふとあまといふと佛佛

相嗣は祖祖證契すべし之領覽あること
志あるれしに 佛種族は相似するに
こそ佛子ふあらざることを子佛ふあるを
對してを曹谿あること衆ある志ある轉
いふ七佛より智慧能ふいふこと四十祖あ
る智慧能より七佛いふこと四十祖ある

は道理ありしに佛祖正嗣は宗旨ある
いふ七佛を過去莊嚴劫に出現せし
もあら現在賢劫に出現せしもあること
あるを四十祖は面授をけしゆゆは佛道を
わ佛嗣なることあることすなり二十祖ある
向上は七佛いふこと四十祖は佛嗣ある

至七佛を向上とす終六祖ふいたるに四十
佛は佛嗣とすなり佛道祖道うとすこと
證契ふありし佛祖ふありしを佛智慧ふ
ありし祖究盡ふありし佛智慧ふありしを
佛信受とす祖究盡ふありしを祖證契
とすありし四十祖といふことなり

舉すはすもなりし佛佛は相嗣する
こと深遠なり終不退不轉なり不斷不絶
なりとす宗旨を釋迦牟尼佛と七佛以前
不成道すといふことありしと迦葉佛も嗣法
とすなりと降生より三十歳十二月八日ふ成道
すといふこと七佛以前は成道とす諸佛齊肩同

時^{同イ}成道とて諸佛以前に成道とて一切諸佛
より末に成道とてとて小迦葉佛を釋迦
牟尼佛の嗣法すとて究竟する道理あるに
道理とてとて佛道をあきらめず佛道
あきらめず佛の嗣法とて佛の
子といふこととて釋迦牟尼佛ありて阿難

ふこととて過去諸佛にたれり弟子とて
釋迦牟尼佛いよく過去諸佛を我釋
迦牟尼佛の弟子とて諸佛に佛儀よく
あきらめず諸佛を奉觀とて佛の嗣法成就
せしむるに佛佛に佛道よくあきらめず
佛道からず嗣法すとてとて嗣書あり

わもふ嗣法をききて天然外道をもて佛道を
志嗣法を決定すむふありともふいゝつ今
日ふいそらんといふも佛佛をきき
もろく佛佛を嗣書ありともて佛佛を
嗣書をききともてふは嗣書を為體と日月
星辰をききともて嗣法をききともて皮肉

骨髓をききともて嗣法をききともて如衣沙
を相嗣とありともて柱杖を相嗣とありとも
松枝を相嗣とありともて拂子を相嗣とあり
ともて優曇花を相嗣とありともて金襴衣を相
嗣とありともて鞞鞋を相嗣とありともて竹篋を相嗣とありとも
新しき嗣法を相嗣とありともて指血を

今猶書嗣志ありしや古血をてて書嗣すあり
 油乳をも擧うる嗣法すなり古新
 嗣書なるも嗣せざるを得ざるなり
 佛嗣なるもあらずなり佛祖にてて現成する
 今も嗣法うするも現成なり現成するも期
 せざるも半なりともありしなり嗣法せざる

第二十八祖西來よりしてなりた佛道小嗣法あり
宗旨を東土に正傳するなりと云ふなりと云ふなり
うけといふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
等なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

三賢境界をわたりて三藏義學は
咒術師等あはれんと疑著すはもれり
うもむりうりなり通器なる人身をうけ
ういたはるる教綱とまはれて透脱は
法をわたり跳出の期を期せざるをわ
りゆり學道を雷網よりすくはんと學究は

志氣をもとて、人々の道元在宋、
半、嗣書を禮拜す。おそくをえとて、多般に
嗣書あり。いかに、唯一西堂、之を天童
小掛錫せし。越え、人事を、前住廣福
寺、法堂頭とて、先師と同郷人。ちて、先師
法、いそ境風を、一西堂小問取す。

あはれき西堂いそく古蹟は可觀き人間は你
玩ちるいそく見來せし道元いそく見來
すしきし西堂いそく吾那裏の壹軸は
古蹟ある甚麼次第あると與方兄看とて
携來をみし無嗣書あると法眼下しとあり
予は在る宿に衣鉢はさうあると云ふはけし

惟一長者はしきあるとけしとありしき
わしとありしき

初祖摩訶迦葉悟於釋迦牟尼佛釋迦
牟尼佛悟於迦葉佛うしきとありしき
道元うしきをみしとて正嫡は正嫡小嗣法ある
とて決定信受を未曾見は法あると佛祖

といふ和尚いま五家宗派を修めぬ所いせし
 う同果ありと云ふところいふは西天より嫡々
 相嗣せしを云ふなりう同異あるんや宗月といふ
 ところ同異はうと云ふところもさうまを云ふ云
 阿山は佛をうと云ふところもさうと云ふて

釋迦孝子
うゝく
うゝく
うゝく
うゝく
尊重他
を悟

道ふより尊尊重るる雲門大師よりよ
り尊る尊重他より悟道ふより尊重
るる直元より語をきくよりか領臨見
ありといふ江州小大刹の主よりあるは
臨濟雲門洞山等が嗣法よりあるは
臨濟より遠孫より自稱するよりあり

なりは不足ありといふ善知識は曹下小参にて
頂相壹副法語壹軸を懇請きて嗣法は標
準ありといふなりは一類は狗子あり尊宿は
かこつて法語頂相手を懇請きてかくた
くわたりといふなりはあり小晚年よりいふ
官家小陪錢を一院を討得て終任持藏小
補をたてしき法語頂相は師小嗣法せむ當
代は名譽はともいふあり王臣小親附たる
長者等小嗣法するなりは得法をこそす名
譽をいふなりはともいふなりは末法惡時
うき世にこの邪風ありとをかくはこく
せやうなりはともいふなりは終一人にて佛

祖は道を夢にも見聞せぬありしかば法語
頂相等をゆるぎしとて教家は講師なり
在家は男女等ふもしく行者商客等も
ゆかりありしかば諸家は録しあきりし
ありては人ふあきりしなりみえりし
據をたしむるなり轉堂軸は書をもし
有通はきしむるなり

授筆すなりしなりしなりしなりし
式ふりしなりしなりしなりしなりし
きなりしなりしなりしなりしなりし
師を師に嗣法すなりしなりしなりし
えなりしなりしなりしなりしなりし
入室上堂小窓參玄の轉長連

牀におはさるゝ佳院にきて、冬、所師承を舉
す。所、いふに、まあると、所、こも、大事打聞す。所、こ
所、師を師とせ、所、を、所、ほく、また、龍門に
佛眼禪師清遠和尚に遠孫として傳へ、所、こ
あり、所、か、師傳藏主、また、嗣書を帶せ、嘉
定、所、こ、火、入、隆禪上座、日本國人、ち、わ、と、こ、こ、

か、師傳藏、また、所、こ、と、け、所、入、隆禪、く、傳藏、を、
省病、を、り、所、こ、勤、所、を、所、こ、と、所、こ、よ、と、所、
省病、は、所、を、謝せん、だ、所、入、嗣書を、所、こ、所、
所、禮拜せ、所、め、所、入、み、う、だ、所、も、所、こ、と、與、所、禮
拜、と、所、こ、所、入、所、こ、と、所、か、だ、八年、所、こ、嘉
定十六年、癸未、あり、所、こ、入、道元、を、り、所、て、天童

山に寓直すは隆禪上座ゆんくうの傳藏主
に請ふに嗣書を道元のみせしを以て嗣書の様
を七佛よりして臨濟といふは四十五祖を
以てわきて臨濟よりして師を一圓相を
以てわきて所をうけりて法諱の花
字をうけしは新嗣と云はるる年
月以下頭しかけに臨濟に尊宿しかるは
此不同なりと云ふなり

先師天童堂頭ふく人此をうけしは嗣法
稱すはをいすは先師の會より古佛
の會より叢林の中興より今にいたる
も加茶沙衣をかけし芙蓉山に道楷禪師の衲

法衣はききしなりとて上堂陞座ふもあ
すねほろろ住持職を志すまはろろ法衣
うけ替へ一生けうちふかりすろろあはれし物
らきおもともふろろ真善知識ちわに尊
重ち先師古佛上堂すねほろろ諸方を
いふ志を替へしと近來おほく祖道ふ名を
かかれやろろろろろろ法衣を搭ふ長髪
をふけん師號ふ署すねを出世け舟航こせ
里あてかれししかれろろろろろろろろ
らろろ諸方長者無道心ふとて學道せよ
ろろろろ嗣書嗣法け因縁を見聞せしけ
ちかすろろろろ百千人中一箇也無くし祖道

凌遲ちりしかるをいふは日ふいまをいふ
天下は長考うらみふわれをすれども誠心
辨通すれどもあらざる嗣書あらざるを見聞
すて見聞すれどもあらざる學道もあら
臨濟の嗣書をまはるは名字をかき終
甲子より参るもかきわり會ふもた

是にかき入吾堂奥にもかき嗣吾にもかきて
はるは前代をたづねたるもあらざる
いさかいあるは法訓あるは宗趣
を嗣をたづねたるは真善
知識ふ相見するは宗旨たる臨濟ふ
をたづねたるはかきわりあるは

みまよふてしむるを

了派藏主者威武人也今吾子也德光
參侍徑山杲和尚徑山嗣夾山勤勤嗣
楊岐演演嗣海會端端嗣楊岐會會嗣
慈明圓圓嗣汾陽昭昭嗣首山念念嗣
風穴昭昭嗣南院顯顯嗣興化莽莽是

臨濟高祖之長嫡也

くわく阿育王山佛照禪師德光かきく派
無際ふあたふたを天童以住持ちりて
小師僧智庚むうかきもちきとるを結了然
寮より道元ふみせとて大宋嘉寧十
七年甲申正月二十一日はくしてくわくをみ

喜感いとしく必ずしも佛祖に其感ちを焼
香禮拜を披看をこれ嗣書を請出すは
と去去年七月に師廣都寺にあり寂
光堂にて道元よりかきし道元ちりて都
寺に今たけ人よりを帶持せし都
寺いしく堂頭左漢那裏有相似むし請

出ぬむしとせしとてみきなりとてわん
道元よりとてとてとてとてとてとて
りて一日に休せしとてとてとて今年ねん
とてとて小師に僧智度を屈請ふ一片心を
とてとて請得せしとてとてとてとて地を
白絹に表背せしとてとて表紙をわき錦

軸長九寸五分闊七尺餘
兩人各各持寸道元大師智度
謝表云云即時小堂頭參差燒香
禮謝無際和尚云云無際云云遮一段
事少得見知如今老兄知得便是學道
之實歸也云云道元喜感無勝

寶慶元年道元台山鴈山等小
雲遊于平田萬年寺于
住持無福州元龜和尚云
宗鑑長老退院云龜和尚補叢
席云一無世人云事云云云云
云云佛祖云家風在往來云云云

大満山は令嗣話を君舉すべく長考い
しと曾着我箇裏嗣書也否道元といふ
いふち終うみねとをえり長考す能は
みはうたり終嗣書をきけていふと這
箇をたれ親人ちりこころしはる侍
僧はこをへたれとこころしをみせ

りしすめと佛祖は法訓をききあはれ
し元難あらう出城を見知府はきりて在
城はこ一夢を感すといふと大梅山法常
禪師におけちり高僧ありと梅花一枝
をさしおけといふと終る船舷をい
は實人あらは花をわいといふとつれい

夢中梅花をわかれあはれ元鼎はげしく
夢中吟をいふ未踏船舷好典三十
ふあはれ不經五日興吾兄相見いふや左
兄す終る船舷踏来に嗣書また梅花
縁にかけ大梅はわかれあはれ人ちん
夢草に符合すおれははるいふす

右兄としあはれ嗣法せんとしむやわ
しむとしわしん年あはれ道元信感
いふあはれ嗣書を請ふしんした焼
香禮拜と恭敬供養すおれとあはれ
焼香侍者法寧といふあはれ嗣書
をみおといふき道元おれ思惟ちん

一段の事ありとて佛祖の冥冥のありきと
見聞するがごとく邊地の愚人のこととらん
といわしめたる数番の事をいふに感涙霑
袖の事と維摩室大舍堂等と閑閑無
事と能嗣書と落地梅綾の事とがけ
長九寸餘闊一尋餘と軸子と黄

玉と表紙と錦とと道元台山と天
童のかつら路程と大梅山護聖寺と旦過
と宿すと小

大梅祖師の事と開花の一枝の梅花を
いふに靈夢を感じ祖鑑しとて仰憑
するにその一枝の花は縦横と壹尺

餘ちるは梅花あり優曇花ありや夢
中ニ覺中ニねむるは眞實なりて道元在
宋はあつた帰國より此をいまだ人にし
いまわつ洞山門下小嗣書をかゝるは臨濟
等小かけのそとそと佛祖は衣裏小
うれとけを青原高祖とそとて曹

谿は几前小てて手指より淨血をいそとて
かきこ傳せられけりちるは指血は曹谿は
指血を合とて書傳せられ計るに相傳せ至
初祖二祖はとて合血は儀なりとて
れ計るに相傳せられ吾子參吾ちとて
かゝる諸佛なり七佛なりきほとへられ

計類嗣書は儀ちるゝとわかれゝとて曹
銘は血氣をひきとけり青原は淨血
和合は青原は淨血とて曹銘は親血
小和合は猶まゝにあたり印證をうけり
是より高祖青原和尚はより餘祖は
よりよりよりより事子をたのむ

かうして佛法をたゞ青原はより正傳せり
道承す

嗣書

先師古佛天童堂上大和尚はより
諸佛はより嗣法はより

釋迦牟尼佛者迦葉佛の嗣法也迦葉佛
者拘那含牟尼佛の嗣法也拘那含牟尼
佛者拘留孫佛の嗣法すも是れかくはこころ
佛佛相嗣を授けりといふを信受すて、これ
學佛の道なりといふも、道元より寸迦葉佛入涅槃
して釋迦牟尼佛より授けり出世成道せり
といふやまた賢劫の諸佛いふも、授けり莊嚴劫
の諸佛の嗣法せむ、これ道理いふべし

先師いふも、ちつといふも、るを聽教は解ち
て十聖三賢等は道なりと佛祖嫡嫡は道ふ
あらわりの佛佛相傳は道なりといふあらわ

釋迦牟尼佛より授けり迦葉佛の嗣法せり

こころをききしるるを釋迦佛の嗣法とて
けちの迦葉佛も入涅槃すとて學するを
釋迦佛も迦葉佛も嗣法とてとて天然
外道とわたりかたつてを釋迦佛を信
するあらんかたつてとて佛佛相嗣といふ
わたりかたつてを釋迦佛とて佛も天然

嗣とてはるるを釋迦佛とてあらんかたつて
あらんかたつてを釋迦佛とて佛佛相嗣といふ
學するを諸阿羅漢教といふを釋迦
量壽量等といふを釋迦とて
釋迦佛といふを釋迦といふをわはる
二千餘年といふを釋迦といふを相嗣といふ

かよ四十餘代ちるあつたもろこつふやア一に
佛嗣をまつたもろこつ學子すもろこつあつた釋迦佛
を迦葉佛の嗣法すもろこつ學子志迦葉佛を釋迦
佛の嗣法すもろこつ學子すもろこつあつたもろこつ學
子すもろこつあつたもろこつ諸佛諸祖の嗣法りてをわ
けちるゝは道元なりめて佛祖の嗣法あり

ことを傳受すもろこつあつたもろこつ從來の舊窠を
し脱落すもろこつあつたもろこつ時日本仁治二年歲次辛
丑三月二十七日觀音導師利興聖寶林寺
入宋傳法沙門道元記

寬元癸卯九月二十四日掛錫於越州吉田縣
吉峯古寺草庵



和歌山縣立博物館



昭和十一年一月一日

